

第1日 6月3日(土)

午前の部(10:00-11:40) (研究発表30分 質疑応答15分)

研究発表

① 十川雅浩(東京大学大学院) (10:00-10:45)

中期共和政ローマにおける護民官
—元老院ならびに執政官との関係を中心に—

② 豊田泰淳(慶應義塾大学非常勤講師) (10:55-11:40)

プロティノスにおける物体の問題
—物塊(ὄγκος)と性質の関係に着目して—

ポスターセッション(12:30頃より大会会場で口頭発表)

小林卓(名古屋大学大学院):ローマ帝政期の周辺世界におけるミトラ
ス教信仰集団の形成—属州ダキアにおける製塩業従事者を中心とす
る社会的ネットワークの果たした役割—

午後の部(13:00-16:35)

③ 西井奨(大阪大学) (13:00-13:45)

ヴァレリウス・マクシムス『著名言行録』8.9.1のValeriについて

研究動向報告

橋場弦(東京大学) (13:55-14:45)

伝アリストテレス『アテナイ人の国制』—その成立と作者をめぐって

④ 上月翔太(愛媛大学講師) (14:55-15:40)

聖書叙事詩という伝統—ラザルス復活場面の比較から—

⑤ 足立広明(奈良大学教授) (15:50-16:35)

皇妃エウドキアのおデュッセイア
—『ホメロス風聖書物語』にみる古代末期の文化変容—

第2日 6月4日(日)

午前の部(9:45-12:00)

研究発表

- ⑥ 岡本幹生(京都大学大学院/特別研究員DC1)(9:45-10:30)
ネロ期におけるアウグストゥスの記憶と歴史の体制
—セネカの著作を中心に—

※総会(10:35-11:05)

- ⑦ 泰田伊知朗(東洋大学教授) (11:15-12:00)
『羅葡日対訳辞典』の中のVenusについて:「賽の7つの目」とは?

午後の部(13:00-16:25)

- ⑧ 相澤康隆(山梨大学准教授) (13:00-13:45)
説得推論の本質的特徴としての簡潔さ
—アリストテレス『弁論術』1357a7-22の解釈を中心に—

フォーラム (13:55-16:25)

「西洋古典学とデジタル・ヒューマニティーズ」

趣旨説明:周藤芳幸(名古屋大学)

司会:川本悠紀子(名古屋大学)

報告:石田真衣(近畿大学)

岩田直也(福岡大学)

河島思朗(京都大学)

コメント:小川潤(東京大学/CODH)

※編集委員会(16:40-)於 天野貞祐記念館 4階 A-402 教室